平成２８年度　国際交流事業　中国高校生訪日団来校
期　　日　平成２８年１２月９日（金）６限目（総合的な学習）１４：４０～１５：３０
放課後（部活動体験）　１６：１０～１７：１０

本校に中国から修学旅行で日本を訪れている高校２年生２８名が来校されました。
６限目に総合的な学習として１、２年生で歓迎レセプションと第５回生徒海外研修報告会を催し、放課後に、部活動の時間に異文化理解を図るため剣道部と茶華道部で国際交流を行いました。

＜歓迎レセプション及び第５回海外研修報告会＞
歓迎レセプション
ブラスバンド歓迎演奏

歓迎の挨拶（生徒会長：２年５組　吉村　信浩　）

訪問団挨拶　記念品授与

第５回生徒海外研修報告
平成２８年度第５回生徒海外研修　（概要説明）
（２－１　権田　咲紀・鈴木日菜子・安河内　愛莉）

８月２日～１１日に実施された生徒海外研修の日程説明をした。また、本校の生徒海外研修の３つの柱である異文化理解、語学研修、課題研究について実際に体験したエピソードを交えながら発表を行った。

平成２８年度第５回生徒海外研修　課題研究（個人研究）
「英国と日本のスポーツ事情から東京オリンピックと London　Olympics 」
（２―６　今村　允春）

スポーツの祭典であるオリンピック。２０１２年のロンドンオリンピックは大成功であったと言われている。パラリンピックの発祥は英国であったが、今夏行われたリオ・デジャネイロ大会では、小中学生の社会科見学としてパラリンピック競技会場を訪れるなどの取り組みがなされた。４年後の東京大会ではメダルの獲得もさることながら認知度をいかにして上げていくか大きな課題である。

日本と英国の家族関係の比較～親と子の信頼関係～」（２－４　合原　佳菜子）

今回お世話になったホスト・マザーのアンさんには大学生と社会人の子どもさんはすでに自立してあり、大人の親子関係であった。一方、日本、特に福岡では大学生や社会人になって実家に住みつづける傾向が高い。この違いがどこから来るのか。日本の親子関係は未熟なのかなどいろいろ考えさせられたが、自らの親子関係も見直す良いきっかけとなった。

「英国人のアンティ―ク・日本人の骨董」（２－６　今泉　拓巳）

英国と言えば、アンテイークが有名でるが、英国の家庭にホームステイして驚いたのは、家のあちこちに古いものがあふれていたことだ。日本では新しいものがもてはやされがちであるが、英国では古いものが大事にされていた。日本ではエコカーや電気自動車などの最先端の自動車がもてはやされる。英国ではクラシックカーが公道を走っている。英国人の「ものを大事にする」ポリシーは今後の自分の人生において大きな道しるべとなるだろう。

平成２８年度第５回生徒海外研修　課題研究（グループ研究）

「日本と英国のナショナル・トラスト」（２－３　平山　夢乃・溝淵　美侑）

２日目に訪れたナショナル・トラスト　Upton House & Gardents　で、ボランテイアの人々が献身的に広大な敷地にある屋敷と庭を運営していた。第２次世界大戦時には、屋敷は銀行に、庭は食料調達のための畑に様変わりしたことを白黒の記録映画で学んだ。

部活動体験（剣道部・茶華道部）

中国の修学旅行生の男子１４名は剣道部に、女子１４名は茶華道部の部活動体験してい

ただいた。

女子１４名を２つのグループに分け、茶道と華道の日本文化を体験してもらった。
修学旅行生たちは茶道の中尾先生のご指導の下、表千家のお手前を披露する茶華道部員の様子を興味津々に見ていた。言葉の壁は確かにあったが、通訳の方を通して茶道の手順を聞いたり、漢字を使って筆談をしたり、簡単な英語で会話をしたりしてお互い交流をしていた。ことばの壁を軽々と越えて国際交流をすることができた。

華道の水上先生のアイディアで日本のいけばなを本校の茶華道部の生徒と中国の生徒の方々でともに学んだ。中国に帰ってもいけばなをしてもらいたいという願いから、剣山ではなくオアシスをお椀に入れ、花器を作った。初めていけばなを体験する中国の方々は本校生徒の手ほどきをうけながら、楽しそうに日本文化を体験していた。なかにはびっくりするほど個性的な作品をつくる中国の方が多く、本校生徒は驚いていた。日本の伝統文化を体験できてたいへん喜んでもらえたようであった。

TREND
TREND

TREND
28

TREND
28

TREND
28
TREND
28